

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立美保関中学校

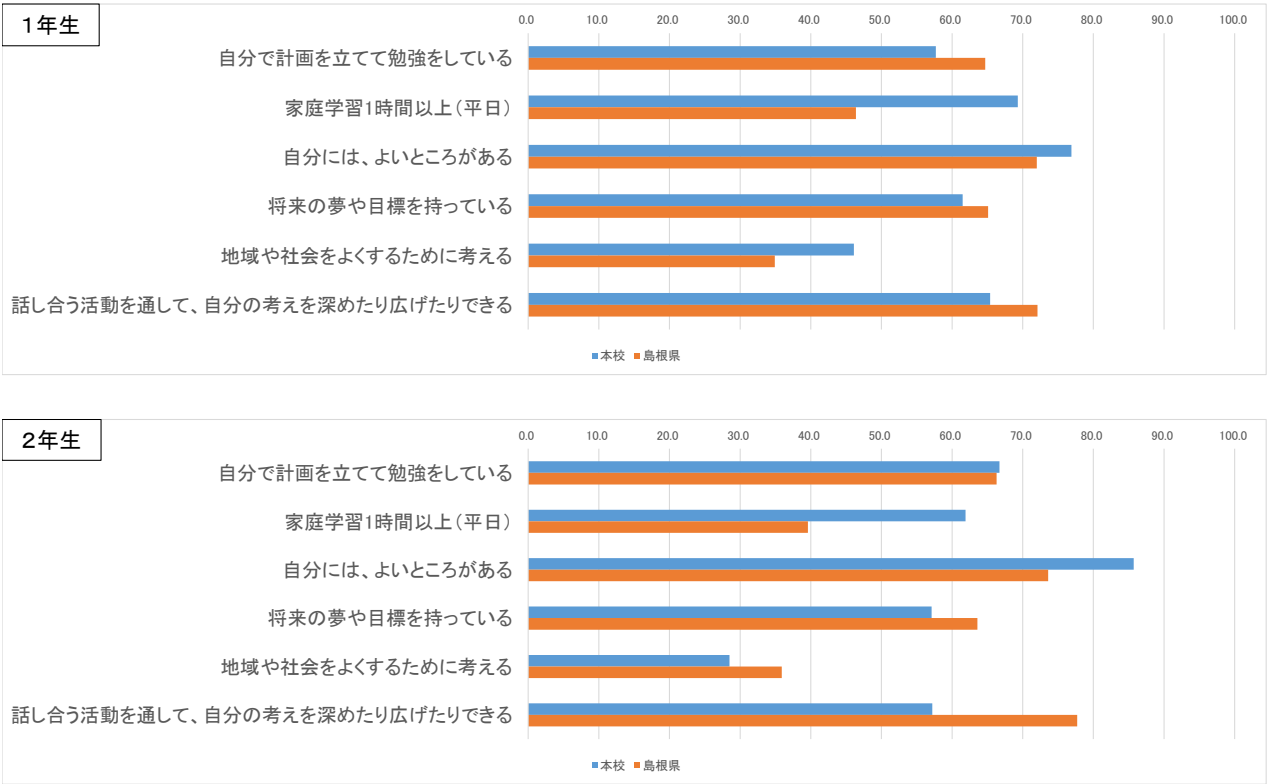
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○古典の導入時に、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す学習についてどれだけ覚えるのかを表にまとめ、見える化して示したり、クイズ形式で確認を行ったりして、意欲を高められるように努めた結果、正答率が高かった。 ●記述式の問いに対しての抵抗感が強く、無解答率も高い。 ●漢字等の基本的な学習についても定着が不十分である。	○昨年度より、「書くこと」の領域に重点を置き、学習を進めてきた結果、記述の問題の正答率が上昇した。 ○大問番号7の記述式の問題では、県や市町村に比べ、無解答率は半分以下であった。 ●文法・語句に関する分野の正答率が低かった。また、漢字についてもまだまだ不十分な面があるので、ドリル式の学習を取り入れて定着を図りたい。
数学	○公式の確認などを日々のペアワーク等で丁寧に行っていた結果、文字式や一次方程式の基本的な計算は目標値に近い数値をとることができている。 ●比例・反比例の問題の正答率が非常に低い。問題文の読み取りが苦手な生徒が多いことも原因の一つであると考えられる。 ●応用問題における無解答率が高い。	○無解答率が低く、粘り強く問題に取り組むことができる生徒が増えている。 ○図形の証明問題において、結論から逆方向に考えていく思考トレーニングを重ねることで、正答率が高くなっている。 ●1次関数において表やグラフから式決定をする問題において課題がみられた。
英語	○授業の初めに毎時間対話練習を行ってきた結果、リスニングの対話文の応答については目標値に達している生徒が多かった。 ●「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域において全体的に課題がある。語彙力を増やし、基本文の反復練習を重ねながら、基礎・基本の力を付けていく必要がある。	○クラスルームイングリッシュやスモールトークによる対話練習を行ってきた結果、リスニングの内容理解等の問題に対して、目標値に達した生徒が多かった。 ●「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域において全体的に課題がある。語彙力を増やし、基本文の反復練習を重ねながら、基礎・基本の力を付けていく必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○ふるさと学習を通して、地域や社会のことに関心をもち、よくしていきたいと思う生徒が増えている。 ●本を読んでいる生徒の割合が県平均に比べて低くなっている。活字に触れる機会を家庭でも増やしてもらえようと呼びかけ等をしていく必要がある。	○全教員で生徒を見守り、きめ細やかな声かけを行ってきた小規模校の強みが、自己肯定感や自己有用感の高さにつながっている。 ○地域と連携した開かれた学校づくり(授業補助、花壇の整備、参観授業、意見交換会など)や地域行事への積極的な参加の成果が出ている。 ●時事問題や読書に対する興味は薄い。また物事を深く考えたり意見交換する経験が少ない。教科等横断的な学びや生徒会活動の中で、他者を理解し、論理的な思考力や判断力を身に付け、知見を広げられるような取組を行いたい。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】 1年生 30 名 2年生 23 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)